

## 資料 1 福井参考人提出資料

医道審議会医師臨床研修部会ヒアリング資料

聖路加国際病院  
福井次矢

1. 2 年次研修医の臨床能力にもたらした新研修制度の影響

- 私たちは、平成 4 年（福井次矢、他、2 年次研修医の臨床知識・技術の修得状況、日本公衆衛生学雑誌 1990;37:798-802）および平成 15 年（瀬上清貴、他、新しい医師臨床研修制度における指導医養成およびモデル研修プログラムに関する研究）の 2 年次研修医を対象に、臨床能力修得状況（自己評価）の調査を行ってきた。
- 平成 17 年度より交付されている厚生労働科学研究費補助金による『新医師臨床研修制度の評価に関する調査研究』（主任研究者：福井次矢）および『卒前教育から生涯教育を通じた医師教育の在り方に関する研究』（主任研究者：篠崎英夫）で、新医師臨床研修制度第一期生の臨床能力修得状況について、前記の調査と同様の方法で調査を行った。
- 平成 15 年 3 月の 2 年次研修医（旧制度研修医）と平成 18 年 3 月の 2 年次研修医（新制度研修医）の臨床能力修得状況を比較した。平成 15 年の調査は 763 施設、平成 17 年の調査は 849 施設の臨床研修教育責任者に自記式調査票を送付し、無作為（5 人に 1 人の割合）に選ばれた 2 年次研修医に回答してもらった。
- 平成 15 年は大学病院の研修医 1762 人、臨床研修病院の研修医 712 人、平成 18 年は大学病院の研修医 487 人、臨床研修病院の 679 人が解析対象となった。
- 4 つの側面（基礎的な臨床知識・技能、やや専門化した臨床知識・技能、行動科学・社会医学的側面を持った臨床知識・技能、臨床研究のための知識・技能）について、「確実にできる、自信がある」、「だいたいできる、たぶんできる」、「あまり自信がない、ひとりでは不安である」、「できない」の 4 段階評価をしてもらい、 $\chi^2$  乗検定にて比較を行った。
- 「[「確実にできる」+「できる」] 割合について
  - ①旧制度研修医に比べて新制度研修医は、「文献検索」を除くすべての項目で「[「確実にできる」+「できる」] 割合が上昇した。「症例呈示」、「動脈採血」、「文献検索」を除くすべての項目で  $p < 0.0001$ 。
  - ②旧制度研修医が新制度研修医を上回る項目はひとつもなかった。
  - ③特に改善の度合いが大きかった項目は「やや専門化した臨床知識・技能」であった。
  - ④大学病院ではほとんどの項目で改善、伸び率が 50%以上の項目が 13 あった。研修病院では伸び率が 50%以上の項目は 6 あった。
  - ⑤旧制度では、研修病院の研修医が大学病院の研修医よりも高かった項目は 19、反対に大学病院が研修病院より優れていた項目は 3 あったが、新制度では、研修病院の研修医が大学病院の研修医よりも優れている項目は 5、反対に大学病院の研修医が研修病院の研修医より優れていた項目は 8 あった。
  - ⑥旧制度、新制度ともに大学病院の研修医が研修病院の研修医よりも優れている項目は「尿沈査」、「血液型」、「眼底」、反対に研修病院の研修医が大学病院の研修医よりも優れている項目は「創傷」、「腰椎穿刺」、「挿管」、「直腸診」、「骨折」などであった。
- 「確実にできる」割合について
  - ①旧制度研修医に比べて新制度研修医は、改善した項目は 11、そのうち伸び率 50%以上のものは 6 であった。

- ②伸び率 50%以上の項目は大学病院の研修医で 7、研修病院の研修医で 8 あった。
- ③旧制度、新制度を通じて、半数以上の研修医が「確実にできる」項目は「動脈採血」のみであった。
- 結論としては、研修医の臨床能力修得状況（自己評価）は、新制度への移行後、大学病院の研修医と研修病院の研修医との間の差がほとんどなくなってきた、といえる。大学病院の研修医の自信が著しく強くなり、とくに「やや専門化した臨床知識・技能」ではその傾向が強かった。
- 82 の症状・病態・疾患の経験例数について
  - ①ショック：平成 15 年は 0 例 9%、1～5 例 33%、6～10 例 23%、11 例～36%、平成 18 年は 0 例 0%、1～5 例 28%、6～10 例 28%、11 例～43%と増加（ $p<.0001$ ）
  - ②妊娠分娩(正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥)：平成 15 年は 0 例 58%、1～5 例 21%、6～10 例 6%、11 例～16%、平成 18 年は 0 例 1%、1～5 例 17%、6～10 例 23%、11 例～59%と増加（ $p<.0001$ ）
  - ③老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、褥瘡)：平成 15 年は 0 例 12%、1～5 例 21%、6～10 例 15%、11 例～51%、平成 18 年は 0 例 0%、1～5 例 19%、6～10 例 19%、11 例～63%と増加（ $p<.0001$ ）
- 調査対象の 82 症状・病態・疾患すべてについて、新制度研修医の経験症例数は有意に増加した。
- 医療記録の記載件数について
  - ①死亡診断書：平成 15 年の 0 通 18%、1～5 通 41%、6～10 通 19%、11 通～23%、平成 18 年は 0 通 7%、1～5 通 55%、6～10 通 21%、11 通～17%と増加した（ $p<.0001$ ）。
  - ②CPC レポート（剖検報告）：平成 15 年の 0 例 64%、1・2 例 26%、3・4 例 7%、5 例～3%、平成 18 年は 0 例 11%、1・2 例 82%、3・4 例 5%、5 例～2%と増加した（ $p<.0001$ ）。
  - ③死体検案書、紹介状についても同様に増加した。

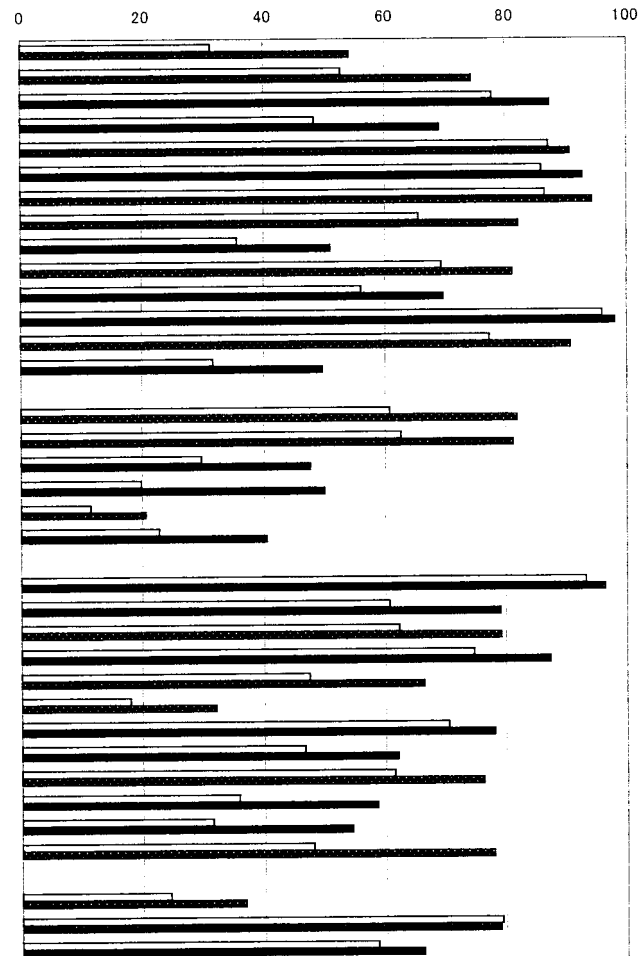
## 2. 新制度における課題

- 研修病院数・研修医枠・地域分布が適切かどうか
- 評価が煩雑
- カリキュラムの改善
- 特定科で必要とされる臨床知識・技能についてのみ評価すると、3 年次研修医は旧制度下に比べて新制度下では劣っているかもしれないが、長いスパンで評価する必要がある
- 幅広い臨床能力を持っている医師の評価方法を工夫してほしい
- 今後のキャリアパスのフォローをしてほしい

表a. 二値化(できる vs. できない)のできる割合

調査項目 ラベル	質問内容	調査 番号	新制度導入前 (H15)		新制度導入後 (H17)		chi- square p	伸び率
			度数	%	度数	%		
<b>a. 基礎的な臨床知識・技能</b>								
細い縫針	縫針の名称を呼び、結果の解釈ができる	40	774	91.37	688	54.24	<0.0001	73%
術後合併症	術後起こりうる合併症及び異常に対して基本的な対処ができる	50	1295	52.81	863	74.59	<0.0001	41%
輸液	輸液の種類と適応を挙げ、輸液の量を決定できる	43	1912	77.88	1017	87.45	<0.0001	12%
創傷	傷病の基本的処置として、デブリードマンができる	48	1188	48.37	801	69.05	<0.0001	43%
症例呈示	カンファレンス等で簡潔に受持患者のプレゼンテーションでき	74	2136	87.15	1051	90.68	0.0021	4%
凝固検査	血液凝固機構に関する検査を指示し、結果を判定できる	26	2112	85.99	1083	92.72	<0.0001	8%
診療録	診療録(退院時サマリーを含む)をPOS(Problem Oriented S)	75	2122	86.61	1095	94.23	<0.0001	9%
心電図+不整脈	心電図検査を自ら実施し、不整脈の鑑別診断ができる	32	1609	65.54	956	82.13	<0.0001	25%
尿沈査	尿沈査の鏡検で、赤血球、白血球、円柱を区別できる	21	875	35.63	595	50.99	<0.0001	43%
腰椎穿刺	腰椎穿刺を実施できる	44	1702	69.3	942	81.14	<0.0001	17%
血液型	血液型クロスマッチを行い、結果の判定ができる	42	1376	56.09	809	69.62	<0.0001	24%
動脈採血	動脈血採血が正しくできる	41	2358	96.01	1141	98.11	0.001	2%
挿管	気管挿管ができる	53	1900	77.39	1053	90.78	<0.0001	17%
臓器診	臓器診(腸切開)の異常を判断できる	48	778	31.66	580	49.7	<0.0001	57%
							Median	21%
<b>b. やや専門化した臨床知識・技能</b>								
各種各医学の診断	胸部CTで肺癌による所見を見出すことができる	37	1491	60.73	952	81.86	<0.0001	35%
各種各医学の診断	頭部MRI検査の適応が判断でき、脳梗塞を判定できる	38	1536	62.54	945	81.19	<0.0001	30%
合併症	合併症(肺野)の発生を判断できる	20	729	29.94	666	47.64	<0.0001	60%
肺野	肺野の発生を判断できる	20	426	17.0	604	43.14	<0.0001	84%
肺野	肺野の発生を判断できる	6	282	11.4	206	14.6	<0.0001	80%
肺野	肺野の発生を判断できる	7	632	25.9	471	30.5	<0.0001	77%
							Median	69%
<b>c. 行動科学・社会医学的側面を持った臨床知識・技能</b>								
行動科学	Understanding patient's interpret model	1	2269	93.11	1123	96.39	<0.0001	4%
患者心理	患者の身体的苦痛のみならず、精神的ケアにも配慮できる	87	1485	60.69	920	79.17	<0.0001	30%
満足度	患者の知識や関心のレベルに応じた健康教育ができる	69	1524	62.23	921	79.26	<0.0001	27%
術前心理	術前患者の不安に対し、心理的配慮をした処置ができる	51	1837	74.86	1012	87.39	<0.0001	17%
MSW	ソーシャルワーカーの役割を理解し、協同して患者ケアを行	67	1161	47.45	770	66.32	<0.0001	40%
認知症	認知症に対する処置、検査等の採行が適切にできる	68	442	18.03	372	32.04	<0.0001	78%
心理社会	患者の身体的側面だけでなく、心理社会的側面に配慮した	61	1726	70.48	905	78.15	<0.0001	11%
公費医療	医療費や社会福祉サービスに関する患者、家族の相談に応	62	1142	46.69	718	62	<0.0001	33%
家族心理	末期患者の家族に病気を説明し、家族の心理的不安を受け	58	1509	61.47	886	76.38	<0.0001	24%
社会福祉	社会福祉制度等の役割について理解し、説明できる	70	878	35.78	679	58.58	<0.0001	64%
在宅医療	在宅医療を希望する末期患者のために、適切なケアを	69	774	31.5	682	54.48	<0.0001	73%
健康教育	健康教育(病状)への適切な説明や相談ができる	65	1178	48.08	908	78.02	<0.0001	62%
							Median	32%
<b>d. 臨床研究のための知識・技能</b>								
t検定	データの種類に応じて適切な統計学的解析ができる	78	603	24.64	427	36.81	<0.0001	49%
文献検索	診療上湧き上がった疑問点について、Medlineで文献検	73	1943	79.34	918	79.07	0.8525	0%
研究論文	研究デザインを理解して、論文を読むことができる	76	1437	58.7	770	66.27	<0.0001	13%
							Median	13%

注: 杉田調査票にあってH15以降の調査票にないもの: a-4(注射法)、a-11(胃腸炎)、a-16(腸腸切開)、b-2(慢性患者)、b-3(麻薬)、b-6(血管造影)、b-7(し線操作)



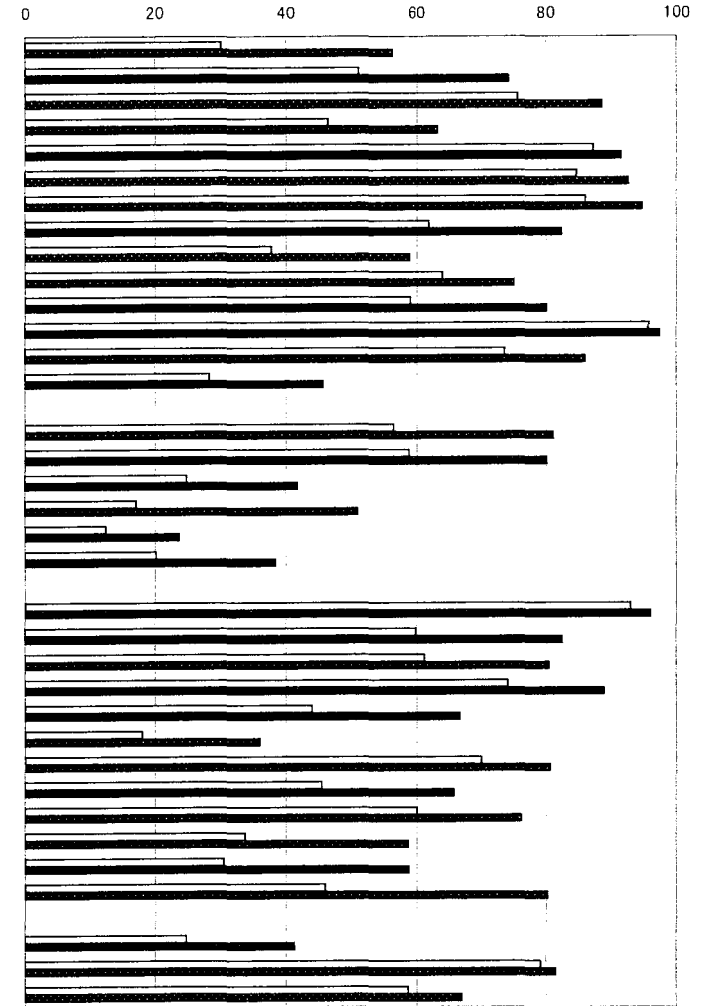
□新制度導入前(H16) ■新制度導入後(H17)

注: 伸び率50%以上

表b. 二値化(できる vs. できない)のできる割合-大学院研修医のみ

調査項目 ラベル	質問内容	調査 番号	新制度導入前 (H15)		新制度導入後 (H17)		chi- square p	伸び率
			度数	%	度数	%		
<b>a. 基礎的な臨床知識・技能</b>								
細菌培養	グラム染色を行い、結果の解釈ができる	30	629	30.16	266	56.24	<.0001	36%
術後合併症	術後起こりうる合併症及び異常に対して基本的な対処ができ	50	895	51.11	346	74.25	<.0001	45%
輸液	輸液の種類と適応を挙げ、輸液の量を決定できる	43	1326	75.68	417	88.54	<.0001	17%
創傷	傷病の基本的処置として、デブリードマンができる	48	813	46.38	297	63.33	<.0001	37%
症例呈示	カンファレンス等で簡潔に受診患者のプレゼンテーションでき	74	1525	87.19	428	91.45	0.0115	5%
凝固検査	血液凝固機構に関する検査を指示し、結果を判定できる	26	1485	84.71	439	92.62	<.0001	9%
診療録	診療録(退院時サマリーを含む)をPOS(Problem Oriented Sy)	75	1505	86.05	445	94.68	<.0001	10%
心電図+不整脈	心電図検査を自ら実施し、不整脈の鑑別診断ができる	32	1086	61.99	388	82.38	<.0001	33%
尿沈査	尿沈査の鏡検で、赤血球、白血球、田丸を区別できる	21	669	37.8	279	58.86	<.0001	56%
腰椎穿刺	腰椎穿刺を実施できる	44	1123	64.06	352	75.05	<.0001	17%
血液型	血液型クロスマッチを行い、結果の判定ができる	42	1032	58.94	377	80.04	<.0001	36%
動脈採血	動脈採血が正しくできる	41	1677	95.66	458	97.45	0.0785	2%
挿管	気管挿管ができる	53	1291	73.65	403	85.93	<.0001	17%
直腸診	直腸診で前立腺の異常を判断できる	18	498	28.39	216	45.67	<.0001	61%
							Median	25%
<b>b. やや専門化した臨床知識・技能</b>								
各種各医学の診断	胸部CTで肺癌による所見を見出すことができる	37	989	56.45	381	81.06	<.0001	44%
各種各医学の診断	頭部MRI検査の適応が判断でき、脳梗塞を判定できる	38	1030	58.76	377	80.04	<.0001	36%
心臓	心臓の初期状態を判断できる	26	432	22.81	198	41.77	<.0001	68%
眼科	眼科の初期状態を判断できる	14	301	17.16	242	51.06	<.0001	197%
皮膚	皮膚の初期状態を判断できる	6	216	12.39	112	23.68	<.0001	92%
皮膚	皮膚の初期状態を判断できる	7	354	20.21	182	38.4	<.0001	90%
							Median	79%
<b>c. 行動科学・社会医学的側面を持った臨床知識・技能</b>								
行動科学	Understanding patient's interpret model	1	1615	92.92	454	95.98	0.0161	3%
患者心理	患児の身体的苦痛のみならず、精神的ケアにも配慮できる	87	1045	59.85	388	82.55	<.0001	38%
満足度	患者の知識や関心のレベルに応じた健康教育ができる	69	1072	61.33	378	80.43	<.0001	31%
術前心理	術前患者の不安に対し、心理的配慮をした処置ができる	51	1299	74.19	415	88.87	<.0001	20%
MSW	ソーシャルワーカーの役割を理解し、適切な患者ケアを行える	67	768	48.96	319	66.74	<.0001	52%
臨床工学	臨床工学技士の検査の役割を理解し、適切な患者ケアを行える	66	316	18.05	169	35.09	<.0001	100%
心理社会	患者の身体的側面だけでなく、心理社会的側面に配慮した治	61	1224	70.02	377	80.56	<.0001	15%
公費医療	医療費や社会福祉サービスに関する患者、家族の相談に応	162	794	45.5	309	65.88	<.0001	45%
家族心理	末期患者の家族に病気を説明し、家族の心理的不安を受け	158	1052	60.01	357	76.28	<.0001	27%
社会福祉	社会福祉政策の役割について理解し、適切な患者ケアを行	62	588	33.77	275	58.64	<.0001	74%
在宅医療	在宅医療を希望する末期患者のために、適切なケアを行	59	536	30.52	275	58.76	<.0001	99%
健康教育	糖尿病患者への健康教育(血糖測定)の指導ができる	65	864	48.94	378	80.17	<.0001	75%
							Median	41%
<b>d. 臨床研究のための知識・技能</b>								
検索	データの整理に際して適切な統計的解析ができる	78	488	24.8	194	41.28	<.0001	66%
文献検索	診療上湧き上がった疑問点について、Medlineで文献検索	73	1384	79.22	382	81.45	0.2868	3%
研究論文	研究デザインを理解して、論文を読むことができる	76	1025	58.67	315	67.02	0.001	14%
							Median	14%

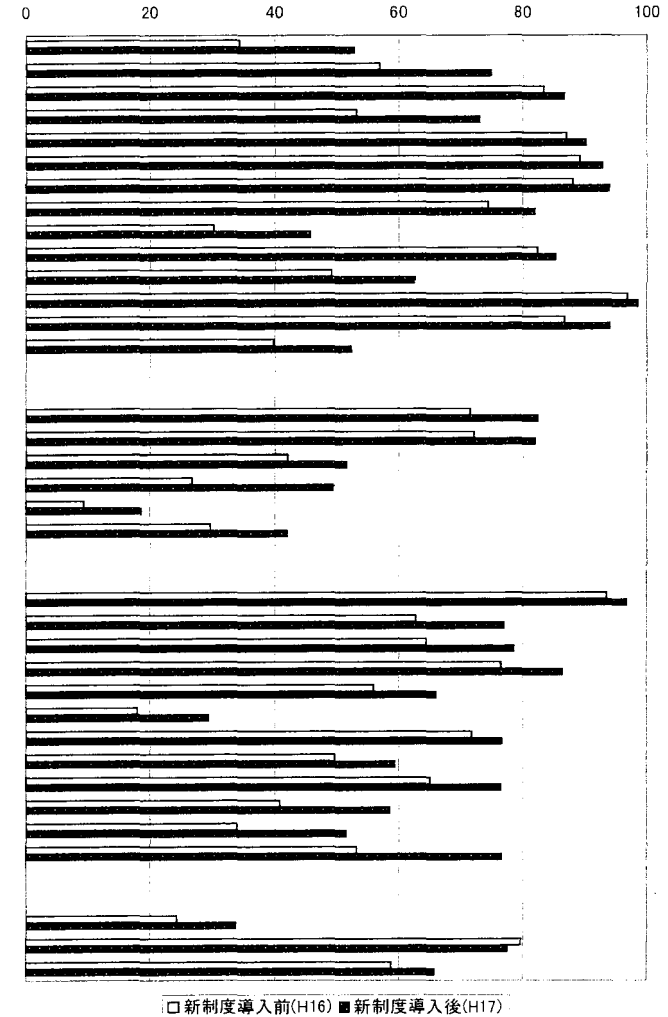
注: 杉田調査票にあってH15以降の調査票にないもの: a-4(注射法)、a-11(胃腸炎)、a-16(膿瘍切開)、b-2(慢性患者)、b-3(麻薬)、b-6(血管造影)、操作)



□新制度導入前(H15) ■新制度導入後(H17)

表c. 二値化(できる vs. できない)のできる割合-研修病院研修医のみ

調査項目 ラベル	調査 番号	質問内容	新制度導入前 (H15)		新制度導入後 (H17)		chi- square p	伸び率
			度数	%	度数	%		
<b>a. 基礎的な臨床知識・技能</b>								
細菌培養	60	グラム染色を行い、結果の解釈ができる	242	34.98	367	52.88	<.0001	54%
術後合併症	50	術後起こりうる合併症及び異常に対して基本的な対処ができる	400	57.06	517	74.82	<.0001	31%
輸液	43	輸液の種類と適応を挙げ、輸液の量を決定できる	586	83.36	600	86.71	0.0798	4%
創傷	48	傷病の基本的処置として、デブリードマンができる	375	53.34	504	72.94	<.0001	37%
症例呈示	74	カンファレンス等で簡潔に受持患者のプレゼンテーションでき	611	87.04	623	90.16	0.0669	4%
凝固検査	26	血液凝固機構に関する検査を指示し、結果を判定できる	627	89.19	644	92.8	0.0186	4%
診療録	75	診療録(退院時サマリーを含む)をPOS(Problem Oriented Sy	617	88.02	650	93.93	0.0001	7%
心電図不整脈	32	心電図検査を自ら実施し、不整脈の鑑別診断ができる	523	74.4	568	81.96	0.0006	10%
尿沈査	21	尿沈査の鏡検で赤血球、白血球、円柱を区別できる	212	30.92	316	45.6	<.0001	51%
腰椎穿刺	44	腰椎穿刺を実施できる	579	82.36	590	85.26	0.1418	4%
血液型	42	血液型クロスマッチを行い、結果の判定ができる	344	49	432	62.52	<.0001	28%
動脈採血	41	動脈血採血が正しくできる	681	96.87	683	98.56	0.0353	2%
挿管	53	気管挿管ができる	609	86.75	650	94.07	<.0001	8%
直腸診	13	直腸診で前立腺の異常を判断できる	280	39.83	364	52.45	<.0001	32%
							Median	9%
<b>b. やや専門化した臨床知識・技能</b>								
各種各医学の診断	37	胸部CTで肺癌による所見を見出すことができる	502	71.41	571	82.4	<.0001	15%
各種各医学の診断	38	頭部MRI検査の適応が判断でき、脳梗塞を判定できる	506	71.98	568	81.96	<.0001	14%
骨折	20	骨折、脱臼、捻挫の鑑別診断ができる	295	42.02	358	51.66	0.0003	23%
妊娠	17	妊娠の初期陽性検査できる	188	26.78	342	49.28	<.0001	84%
眼底	6	眼底視鏡に使用し、動脈硬化の有無を判定できる	66	9.4	129	18.64	<.0001	98%
鼓膜	7	鼓膜を観察し、異常の有無を判定できる	208	29.63	291	41.93	<.0001	42%
							Median	32%
<b>c. 行動科学・社会医学的側面を持った臨床知識・技能</b>								
行動科学	1	Understanding patient's interpret model	654	93.56	669	96.68	0.0071	3%
患者心理	87	患者の身体的苦痛のみならず、精神的ケアにも配慮できる	440	62.77	532	76.88	<.0001	22%
満足度	69	患者の知識や関心のレベルに応じた健康教育ができる	452	64.48	543	78.47	<.0001	22%
術前心理	51	術前患者の不安に対し、心理的配慮をした処置ができる	538	76.53	597	86.4	<.0001	13%
MSW	67	ソーシャルワーカーの役割を理解し、協同して患者ケアを行える	393	56.14	457	66.04	0.0002	18%
保険	66	保険の適用範囲、検査等の保険料額を知っている	126	17.97	203	29.34	<.0001	68%
心理社会	61	患者の身体的側面だけでなく、心理社会的側面に配慮した治	502	71.61	528	76.52	0.0368	7%
公費医療	62	医療費や社会福祉サービスに関する患者、家族の相談に応じ	348	49.64	409	59.36	0.0003	20%
家族心理	58	末期患者の家族に病気を説明し、家族の心理的不安を受け	457	65.1	529	76.45	<.0001	17%
社会福祉	72	社会福祉施設等の役割について理解し、連携をとることがで	285	40.77	404	58.55	<.0001	44%
在宅医療	69	在宅医療を希望する末期患者のために、連携を促すことが	239	34.64	357	51.59	<.0001	52%
健康教育	65	糖尿病患者への健康教育(健康相談および指導)ができる	374	53.43	529	76.56	<.0001	43%
							Median	21%
<b>d. 臨床研究のための知識・技能</b>								
t検定	78	データの種類に応じて適切な統計学的解析ができる	170	24.25	233	33.77	<.0001	39%
文献検索	73	診療上湧き上がってきた疑問点について、Medlineで文献検索	559	79.63	536	77.46	0.323	-3%
研究論文	76	研究デザインを理解して、論文を読むことができる	412	58.77	455	65.75	0.0072	12%
							Median	12%



注: 杉田調査票にあってH15以降の調査票にないもの: a-4(注射法)、a-11(胃腸炎)、a-16(膿瘍切開)、b-2(慢性患者)、b-3(麻薬)、b-6(血管造影)、b-7(縫線操作)

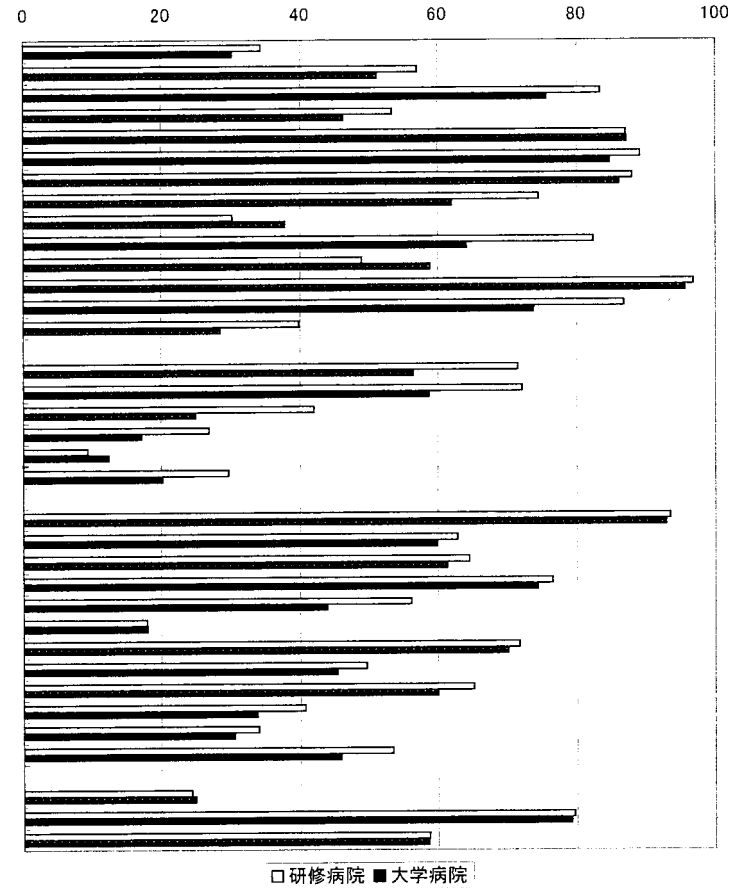
区分別 伸び率50%以上

表d. 二値化(できる vs. できない)のできる割合-導入前 (H15)

調査項目 ラベル	質問内容	調査 番号	研修病院		大学病院		chi- square p
			度数	%	度数	%	
<b>a. 基礎的な臨床知識・技能</b>							
細菌培養	グラム染色を行い、結果の解釈ができる	30	242	34.38	529	30.16	0.0417
術後合併症	術後起こりうる合併症及び異常に対して基本的な対処ができる	50	400	57.06	895	51.11	0.0077
輸液	輸液の種類と適応を挙げ、輸液の量を決定できる	43	586	83.36	1326	75.68	<.0001
創傷	傷病の基本的処置として、デブリッドマンができる	48	375	53.34	813	46.38	0.0018
症例呈示	カンファレンス等で簡潔に受持患者のプレゼンテーションができる	74	611	87.04	1525	87.19	0.9171
凝固検査	血液凝固機構に関する検査を指示し、結果を判定できる	26	627	89.19	1485	84.71	0.0039
診療録	診療録(退院時サマリーを含む)をPOS(Problem Oriented S	75	617	88.02	1505	86.05	0.1961
心電図不整脈	心電図検査を自ら実施し、不整脈の鑑別診断ができる	32	523	74.4	1086	61.99	<.0001
尿沈査	尿沈査の鏡検で、赤血球、白血球、円柱を区別できる	21	212	30.2	663	37.8	0.0004
腰椎穿刺	腰椎穿刺を実施できる	44	579	82.36	1123	64.06	<.0001
血液型	血液型クロスマッチを行い、結果の判定ができる	42	344	49	1032	58.94	<.0001
動脈採血	動脈血採血が正しくできる	41	681	96.87	1677	95.66	0.1675
挿管	気管挿管ができる	53	609	86.75	1291	73.65	<.0001
直腸診	直腸診で前立腺の異常を判断できる	13	280	39.83	498	28.39	<.0001
<b>b. やや専門化した臨床知識・技能</b>							
各種各医学の診断	胸部CTで肺癌による所見を見出すことができる	37	502	71.41	989	56.45	<.0001
各種各医学の診断	頭部MRI検査の適応が判断でき、脳梗塞を判定できる	38	506	71.98	1030	58.76	<.0001
骨折	骨折、脱臼、捻挫の鑑別診断ができる	20	295	42.02	434	24.81	<.0001
妊娠	妊娠の初期兆候を把握できる	14	188	26.78	301	17.16	<.0001
眼底	眼底所見により、動脈硬化の有無を判定できる	6	66	9.4	216	12.33	0.0399
鼓膜	鼓膜を観察し、異常の有無を判定できる	7	208	29.63	354	20.21	<.0001
<b>c. 行動科学・社会医学的側面を持った臨床知識・技能</b>							
行動科学	Understanding patient's interpret model	1	654	93.56	1615	92.92	0.5731
患者心理	患児の身体的苦痛のみならず、精神的ケアにも配慮できる	87	440	62.77	1045	59.85	0.1818
満足度	患者の知識や関心のレベルに応じた健康教育ができる	69	452	64.48	1072	61.33	0.1459
術前心理	術前患者の不安に対し、心理的配慮をした処置ができる	51	538	76.53	1299	74.19	0.2264
MSW	ソーシャルワーカーの役割を理解し、協同して患者ケアを行う	67	393	56.14	768	43.96	<.0001
レセプト	日常よく行う処置、検査等の保険点数を知っている	66	126	17.97	316	18.05	0.9663
心理社会	患者の身体的側面だけでなく、心理社会的側面に配慮している	61	502	71.61	1224	70.02	0.4358
公費医療	医療費や社会福祉サービスに関する患者、家族の相談に応	62	348	49.64	794	45.5	0.0634
家族心理	末期患者の家族に病気を説明し、家族の心理的不安を受け	58	457	65.1	1052	60.01	0.0192
社会福祉	社会福祉施設等の役割について理解し、連携をとることが	72	285	40.77	588	33.77	0.0011
在宅医療	在宅医療を希望する末期患者のために、環境整備を指導	59	239	34	535	30.52	0.0935
健康教育	糖尿病患者への健康教育(健康相談および指導)ができる	65	374	53.43	804	45.94	0.0008
<b>d. 臨床研究のための知識・技能</b>							
t検定	データの種類に応じて適切な統計学的解析ができる	78	170	24.25	433	24.8	0.7759
文献検索	診療上湧き上がってきた疑問点について、Medlineで文献検	73	559	79.63	1384	79.22	0.8215
研究論文	研究デザインを理解して、論文を読むことができる	76	412	58.77	1025	58.67	0.9633

注: 杉田調査票にあってH15以降の調査票にないもの: a-4(注射法)、a-11(胃腸炎)、a-有意差のあったもの

ピンク 研修病院>大学病院  
黄色 研修病院<大学病院

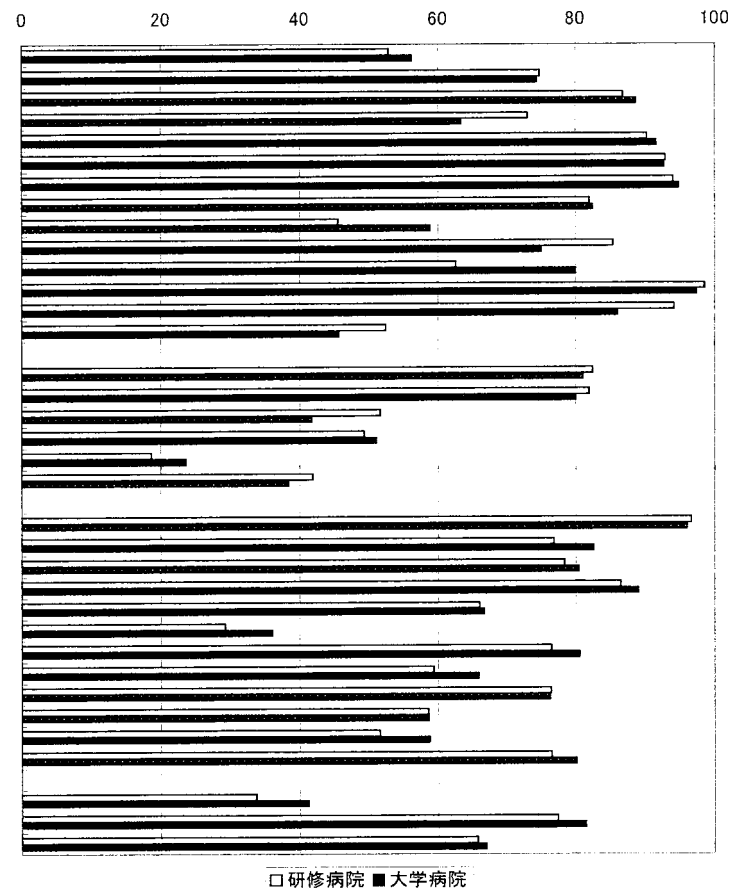


表e. 二値化(できる vs. できない)のできる割合-導入後(H17)

調査項目 ラベル	質問内容	調査 番号	研修病院		大学病院		chi- square p
			度数	%	度数	%	
<b>a. 基礎的な臨床知識・技能</b>							
細菌培養	グラム染色を行い、結果の解釈ができる	30	367	52.88	266	56.24	0.2587
術後合併症	術後起こりうる合併症及び異常に対して基本的な対処ができる	50	517	74.82	346	74.25	0.827
輸液	輸液の種類と適応を挙げ、輸液の量を決定できる	43	600	86.71	417	88.54	0.3552
創傷	傷病の基本的処置として、デブリードマンができる	48	504	72.94	297	63.33	0.0005
症例呈示	カンファレンス等で簡潔に受持患者のプレゼンテーションができる	74	623	90.16	428	91.45	0.4572
凝固検査	血液凝固機構に関する検査を指示し、結果を判定できる	26	644	92.8	439	92.62	0.9078
診療録	診療録(退院時サマリーを含む)をPOS(Problem Oriented S)	75	650	93.93	445	94.68	0.5903
心電図+不整脈	心電図検査を自ら実施し、不整脈の鑑別診断ができる	32	568	81.96	388	82.38	0.8559
尿沈査	尿沈査の鏡検で、赤血球、白血球、円柱を区別できる	21	316	45.6	279	58.86	<.0001
腰椎穿刺	腰椎穿刺を実施できる	44	590	85.26	352	75.05	<.0001
血液型	血液型クロスマッチを行い、結果の判定ができる	42	432	62.52	377	80.04	<.0001
動脈採血	動脈血採血が正しくできる	41	683	98.56	458	97.45	0.1726
挿管	気管挿管ができる	53	650	94.07	403	85.93	<.0001
直腸診	直腸診で前立腺の異常を判断できる	13	364	52.45	216	45.67	0.0228
<b>b. やや専門化した臨床知識・技能</b>							
各種各医学の診断	胸部CTで肺癌による所見を見出すことができる	37	571	82.4	381	81.06	0.5631
各種各医学の診断	頭部MRI検査の適応が判断でき、脳梗塞を判定できる	38	568	81.96	377	80.04	0.4107
骨折	骨折、脱臼、捻挫の鑑別診断ができる	20	358	51.66	198	41.77	0.0009
妊娠	妊娠の初期兆候を把握できる	14	342	49.28	242	51.05	0.5513
眼底	眼底所見により、動脈硬化の有無を判定できる	6	129	18.64	112	23.63	0.0389
鼓膜	鼓膜を観察し、異常の有無を判定できる	7	291	41.93	182	38.4	0.2269
<b>c. 行動科学・社会医学的側面を持った臨床知識・技能</b>							
行動科学	Understanding patient's interpret model	1	669	96.68	454	95.98	0.5331
患者心理	患児の身体的苦痛のみならず、精神的ケアにも配慮できる	87	532	76.88	388	82.55	0.0194
満足度	患者の知識や関心のレベルに応じた健康教育ができる	69	543	78.47	378	80.43	0.4193
術前心理	術前患者の不安に対し、心理的配慮をした処置ができる	51	597	86.4	415	88.87	0.2144
MSW	ソーシャルワーカーの役割を理解し、協同して患者ケアを行う	67	457	66.04	313	66.74	0.8052
レセプト	日常よく行う処置、検査等の保険点数を知っている	66	203	29.34	169	36.03	0.0164
心理社会	患者の身体的側面だけでなく、心理社会的側面に配慮した	61	528	76.52	377	80.56	0.1031
公費医療	医療費や社会福祉サービスに関する患者、家族の相談に応	62	409	59.36	309	65.88	0.0248
家族心理	末期患者の家族に病気を説明し、家族の心理的不安を受け	58	529	76.45	357	76.28	0.9489
社会福祉	社会福祉施設等の役割について理解し、連携をとることが	72	404	58.55	275	58.64	0.9771
在宅医療	在宅医療を希望する末期患者のために、環境整備を指導	59	357	51.59	275	58.76	0.0161
健康教育	糖尿病患者への健康教育(健康相談および指導)ができる	65	529	76.56	376	80.17	0.1446
<b>d. 臨床研究のための知識・技能</b>							
t検定	データの種類に応じて適切な統計学的解析ができる	78	233	33.77	194	41.28	0.0092
文献検索	診療上湧き上がった疑問点について、Medlineで文献検	73	536	77.46	382	81.45	0.1008
研究論文	研究デザインを理解して、論文を読むことができる	76	455	65.75	315	67.02	0.6532

注: 杉田調査票においてH15以降の調査票にないもの; a-4(注射法)、a-11(胃腸炎)、a-有意差のあったもの

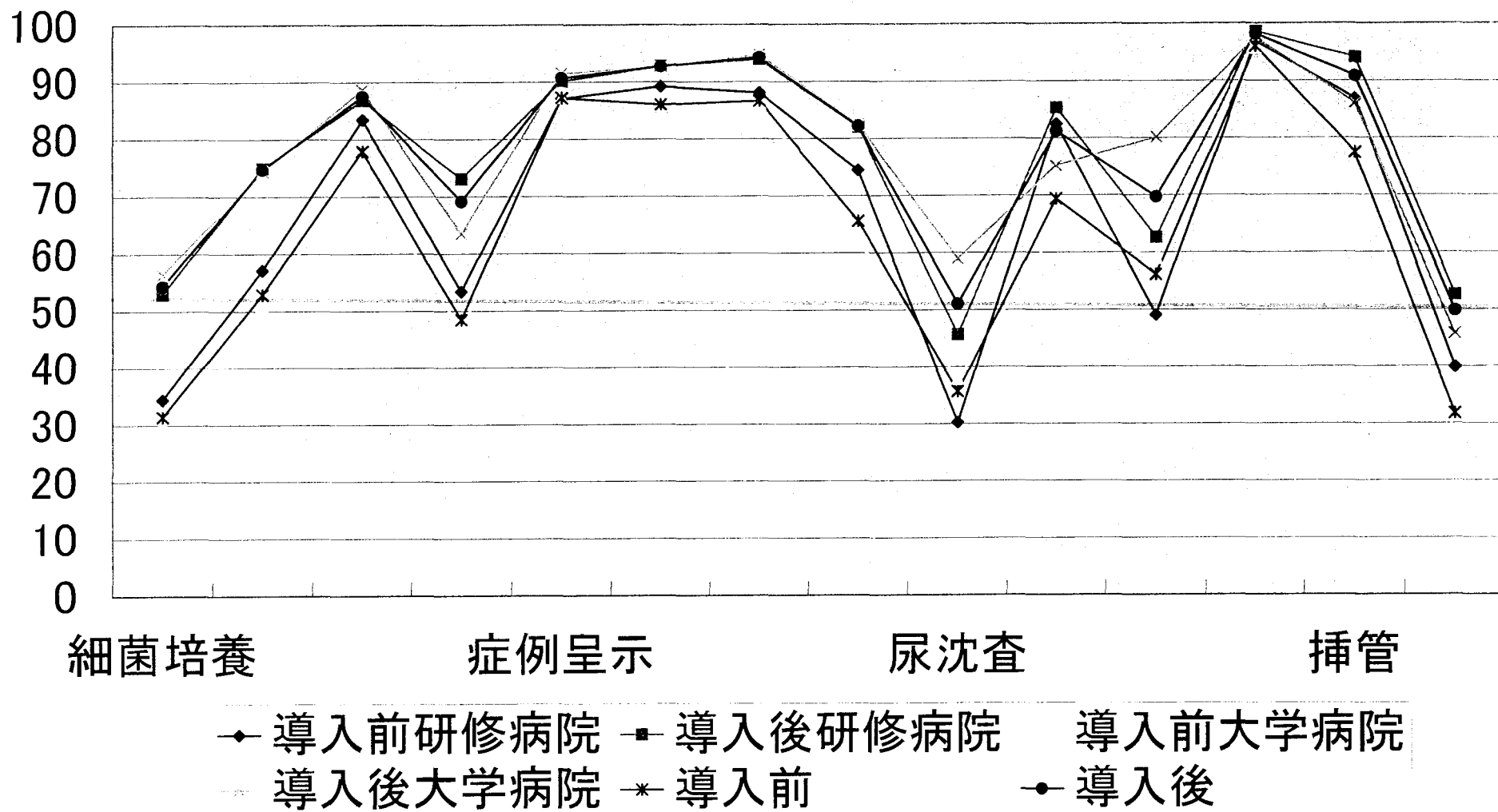
ピンク 研修病院>大学病院  
黄色 研修病院<大学病院



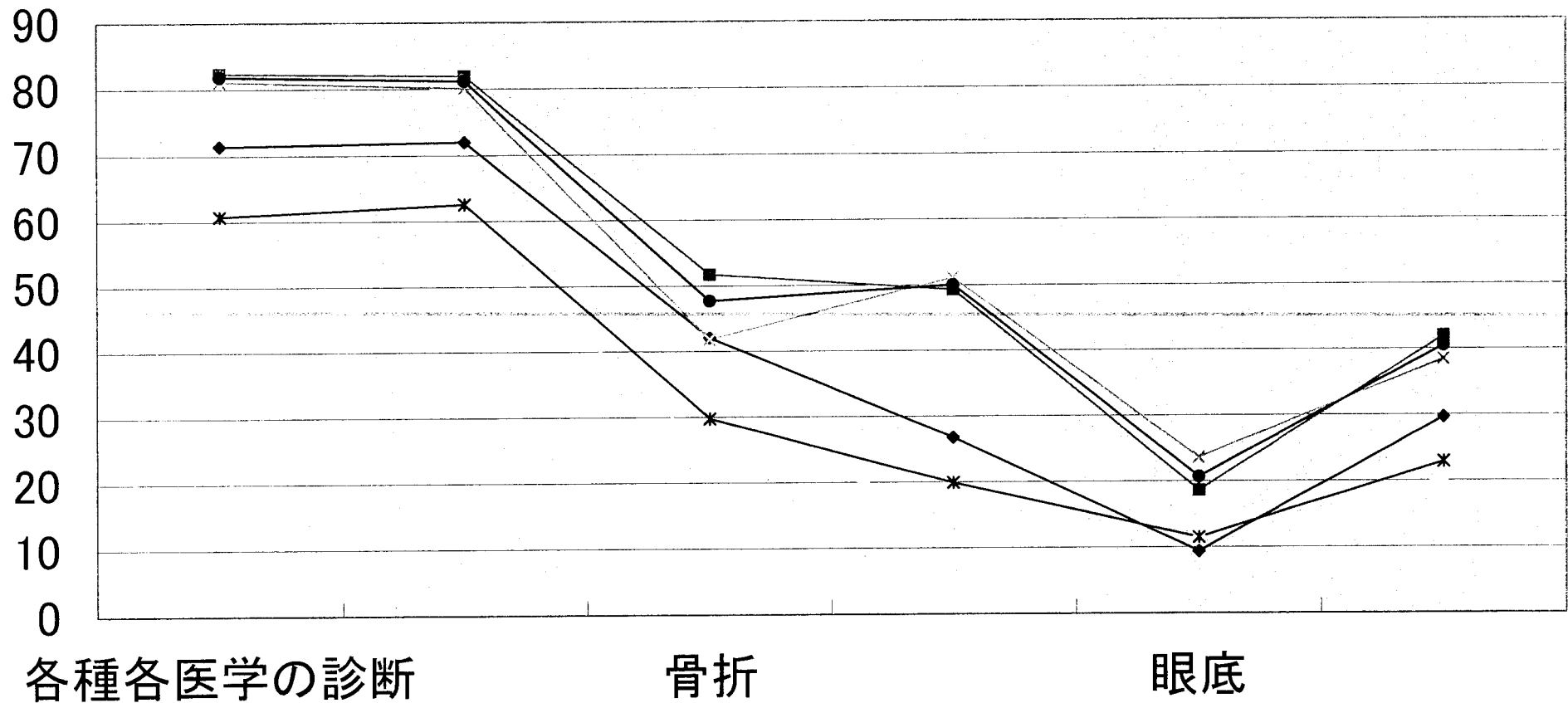
□ 研修病院 ■ 大学病院



a. 基礎的な臨床知識・技能(できる)

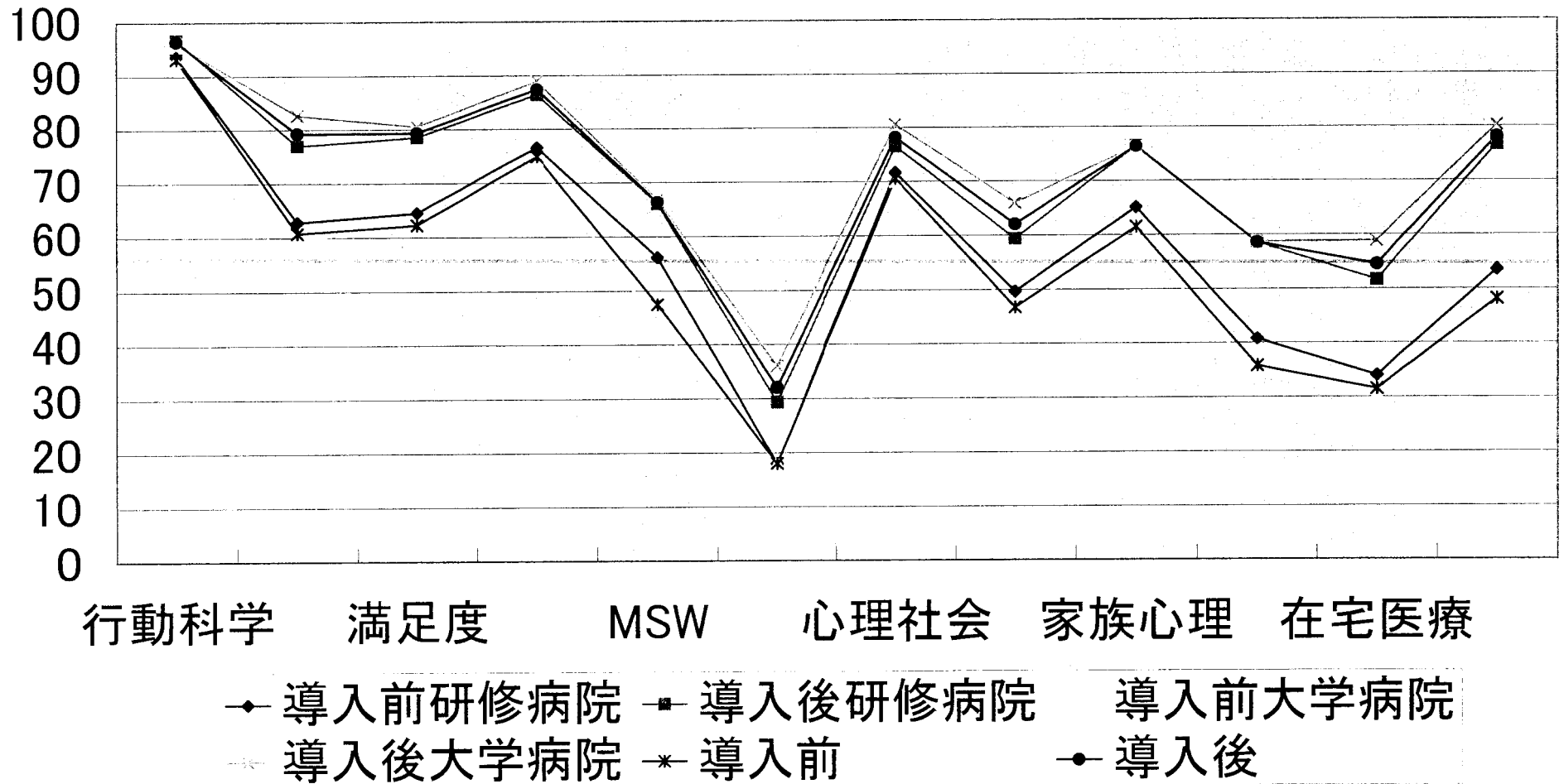


b. やや専門化した臨床知識・技能(できる)

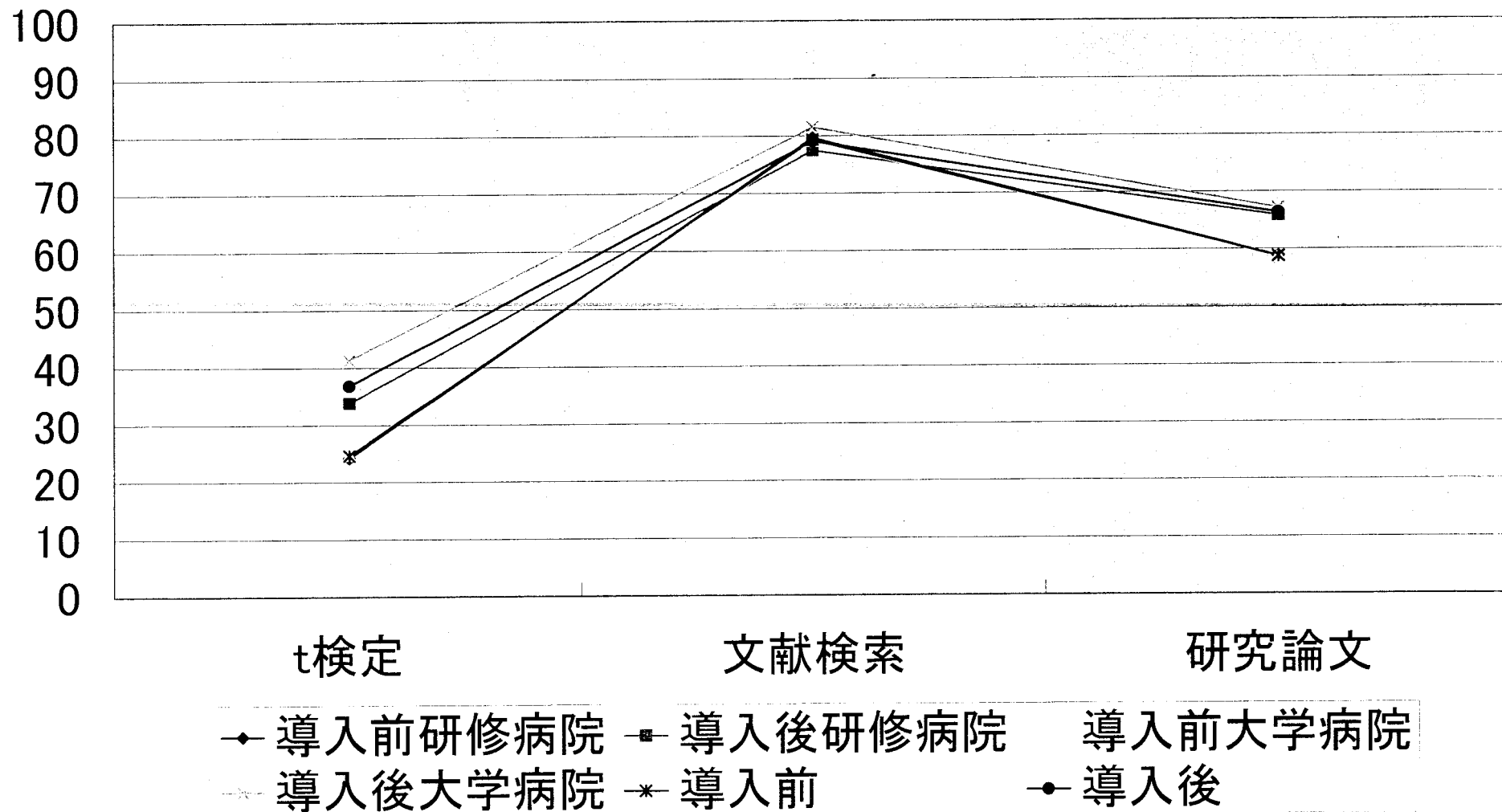


- ◆ 導入前研修病院
- 導入後研修病院
- 導入前大学病院
- ◆ 導入後大学病院
- \* 導入前
- 導入後

c. 行動科学・社会医学的側面を持った臨床知識・技能(できる)

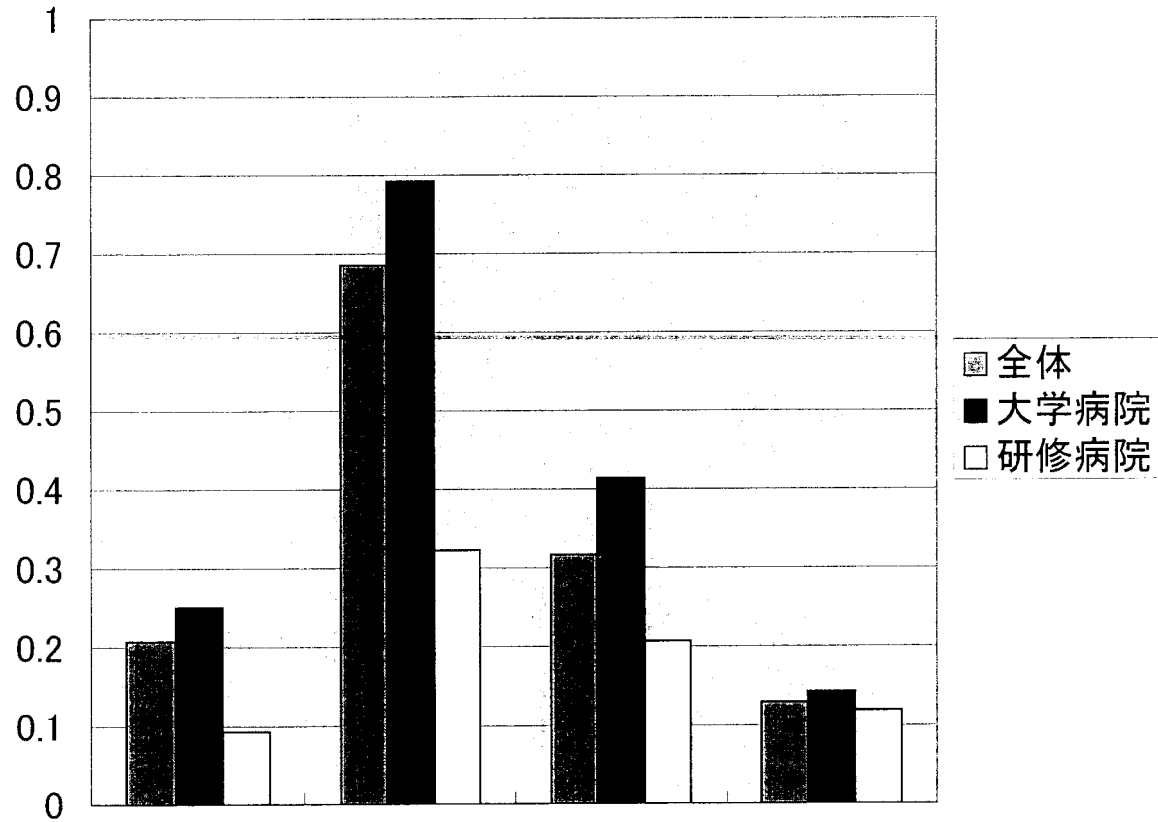


### d. 臨床研究のための知識・技能(できる)



伸び率比較図

	a. 基礎的な臨床知識・技能	b. やや専門化した臨床知識・技能	c. 行動科学・社会医学的側面を持った臨床知識・技能	d. 臨床研究のための知識・技能
全体	0.207119619	0.685220969	0.316202872	0.128960818
大学病院	0.250240967	0.791822402	0.413596813	0.142321459
研修病院	0.092996653	0.322267188	0.206388166	0.118768079



i. 基礎的な臨床知識・技能